

平成 25 年 6 月 3 日	病虫害発生予報 6 月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
--------------------	-------------------------------	------------------------

平成 25 年度茨城県農薬危害防止運動期間が始まります(6/15～9/14)
～薬剤散布時には周辺作物等へ飛散しないよう十分注意しましょう～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
水稲：いもち病(葉いもち)，ニカメイガ・・・・・・・・・・・・・・・・	1
ナシ：黒星病・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【防除所レポート】：「幸水」が黒星病に再び感染しやすくなる時期 ・・・・・・・・	2
ナシ：ナシヒメシンクイ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
【防除所レポート】：ナシヒメシンクイ第二世代幼虫の防除適期の予測 ・・・・・・・・	4
半促成ピーマン：うどんこ病，アザミウマ類・・・・・・・・	5
夏ネギ：べと病，ネギアザミウマ・・・・・・・・	6
【その他の病虫害】 ・・・・・・・・	7
水稲，ブドウ，果樹共通，半促成ピーマン，抑制トマト，夏ネギ，共通害虫	
施設野菜の栽培終了後の管理について・・・・・・・・	7
II. 今月の気象予報 ・・・・・・・・	
<p>水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに，止水期間を1週間程度とすること。</p> <p>最新の農薬登録内容は，(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。</p>	
<p>詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。</p> <p>茨城県病虫害防除所 Tel : 029-227-2445</p> <p>予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。</p> <p>ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/</p> <p>フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、置苗での本病の発生は、例年どおり認められない。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か多いと予想され、発生をやや助長する条件である。

発生好適条件：気温 20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。
- ⑤ 中干し等の栽培管理を徹底し、イネの健全育成に努める。

2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
やや早い	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、フェロモントラップにおける誘殺時期は平年よりやや早い。誘殺数は水戸市、筑西市で平年より多く、龍ヶ崎市で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本虫の発生は、局地的に増加している。近年発生が目立つ地域では第一世代幼虫を対象に薬剤防除を6月中旬に実施する。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病葉率(本年値0.4%, 平年値0.2%), 発病果率(本年値0.3%, 平年値0.2%)ともに平年よりやや高い。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生をやや助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 効果的に防除するためには、二次伝染源の除去が重要である。発病した葉及び果実は二次伝染源となるため、見つけ次第除去し、園外に持ち出して土中深く埋める等適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 本年はナシの開花が早かったため、平成25年版赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例等に従って薬剤散布する場合は、ナシの生育に合わせて散布時期を早める。なお、多発生している圃場では追加防除を行う。
- ④ 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [「幸水」が黒星病に再び感染しやすくなる時期]

- ① 「幸水」の果実は、開花約65～85日後頃に再び感染しやすくなる。県内の主要産地における本病に感染しやすくなる時期は表のとおりとなる。
- ② この期間は薬剤の散布間隔が10日以上空かないように注意し、効果の高い薬剤を確実に散布する。

表 ナシ「幸水」が黒星病に再び感染しやすくなる時期(開花65日～85日後)

地点	開花65日後	～	開花85日後	開花日 ¹⁾	満開日
笠間市	6月15日	～	7月5日	4月11日	4月14日
かすみがうら市	6月11日	～	7月1日	(4月7日)	4月10日
石岡市	6月14日	～	7月4日	(4月10日)	4月13日
筑西市	6月11日	～	7月1日	(4月7日)	4月10日
下妻市	6月11日	～	7月1日	(4月7日)	4月10日
八千代町	6月13日	～	7月3日	(4月9日)	4月12日

1) カッコ内は満開日から推測した日付

※開花時期は農業総合センター園芸研究所および農林事務所経営・普及部門(農業改良普及センター)調べ

2. ナシヒメシンクイ（第一世代成虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，次世代成虫(第一世代)の発生時期は，越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から，平年並と予測できる。
- ② 5月下旬現在，地区予察圃（小美玉市，笠間市，かすみがうら市）及び土浦市に設置したフェロモントラップへの誘殺数は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後，第一世代成虫が発生するため，病害虫防除所が発表する情報を参考に適期防除に努める。
- ② 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

ナシヒメシンクイ第二世代幼虫の防除適期の予測

- ①第二世代幼虫を対象とした防除適期は、第一世代成虫の誘殺数が最高に達した日の7～9日後である。
- ②各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は、越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から、平年並と予測できる（表1）。
- ③各地点の第二世代幼虫の防除適期は表2のとおりとなる。
- ④発生時期の予測は5月30日現在であるので、今後発表する最新情報を参考にする。

表1 越冬世代成虫の誘殺最盛期と第一世代成虫の予測誘殺最盛期

地点	越冬世代成虫の 誘殺最盛期 ¹⁾	第一世代成虫の 予測される誘殺最盛期 ²⁾
茨城町	4月第4半旬	6月21日～6月22日
笠間市（旧友部町）	4月第4半旬	6月18日～6月19日
笠間市（旧岩間町）	4月第2半旬	6月15日～6月17日
小美玉市	4月第4半旬	6月21日～6月22日
石岡市	4月第3半旬	6月14日～6月15日
かすみがうら市	4月第4半旬	6月15日～6月17日
土浦市	4月第6半旬	6月18日～6月20日
筑西市	4月第2半旬	6月13日～6月14日

- 1) 各地点に設置したフェロモントラップへのナシヒメシンクイ越冬世代成虫の誘殺最盛期
- 2) ナシヒメシンクイの発育零点を11.1℃とし、越冬世代の誘殺最盛期からの有効積算温度が384日度となる日を予測（5月30日現在）。
- 3) 誘殺最盛期の予測には、各地点付近のアメダス観測所の実測値及び平年値（1981年～2010年）を使用した。

表2 ナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の 予測される防除適期 ¹⁾
茨城町	6月28日～7月1日
笠間市（旧友部町）	6月25日～6月28日
笠間市（旧岩間町）	6月22日～6月26日
小美玉市	6月28日～7月1日
石岡市	6月21日～6月24日
かすみがうら市	6月22日～6月26日
土浦市	6月25日～6月29日
筑西市	6月20日～6月23日

- 1) 表1の第一世代成虫の予測される誘殺最盛期に7日と9日を足した日付。

半促成ピーマン

1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，発病度*（本年値 16.0，平年値 5.1），発生地点率ともに平年よりやや高い。
- ② 天敵を導入しているハウスで発病を認めている。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため，発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため，病斑の多い葉は取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の発生を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ④ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合，天敵への影響に十分注意する。

2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，寄生花率（本年値 75.2%，平年値 40.7%），発生地点率ともに平年より高い。
- ② 5月下旬現在，被害果率（本年値 13.2%，平年値 0.8%），発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので，発生の少ないうちに防除を徹底する。また，各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は，薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合，天敵への影響に十分注意する。

（平成 25 年 6 月発表予定の病害虫速報 No. 1 参照）

夏ネギ

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並～やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病度*は平年より低く（本年値 0.1，平年値 4.1），発生地点率は平年よりやや低い（本年値 13%，平年値 44%）。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の降水量は平年並か多く，日照時間は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 本病は今後の気象条件により発病状況が大きく変わることがあるので，圃場をよく観察し，発病が認められたら初期防除を行う。
- ② 薬剤散布は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。

2. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，被害度¹⁾は平年よりやや高く（本年値 23.8，平年値²⁾ 18.5），芯葉の被害株率は平年より高い（本年値 70.5%，平年値²⁾ 39.4%）。

1) 被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

2) 平年値：被害度は過去 10 年間，被害株率は過去 8 年間の平均値を表す。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴い増殖が速くなる。多発生すると防除が困難になるので適期防除に努める。
- ② 発生源となる圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，薬剤を散布する際は，収穫前日数に十分注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	黄化萎縮病	発生量：－	移植後 10～50 日の間に冠水すると発生の恐れがある。常発地や昨年発生が見られた水田で冠水した場合には、速やかに防除を行う。
	イネドロオイムシ	発生量：やや多い～多い	5月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の寄生が多い場合は防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生量：平年並	5月下旬現在，成虫の発生量は平年並である。イネの初期生育が遅い水田，育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
ブドウ	灰色かび病	発生量：平年並	5月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病		
果樹共通	カメムシ類	発生量：少ない	5月下旬現在，平年より少ない発生である。
ピーマン 半促成	斑点病	発生量：平年並	5月下旬現在，平年並の発生である。
トマト 抑制	黄化葉巻病	発生量：－	育苗時に感染すると大きな被害となるので，苗を0.4mm 目合い以下の防虫ネットでトンネル被覆し粒剤を施用する等，タバココナジラミの防除を徹底する。
夏ネギ	ネギハモグリバエ	発生量：やや多い	5月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
共通害虫	アブラムシ類	発生量：やや多い～多い	5月下旬現在，ナス(県予察圃)，夏ネギで平年より多く，ナシで平年よりやや多い発生である。黄色水盤への飛来数は平年より多い。

施設野菜の栽培終了後の管理について

コナジラミ類，アザミウマ類，アブラムシ類は，各種ウイルス病を媒介するのでハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため，株元を切断し，除草を行って，2週間程度ハウスを密閉する蒸し込みを行う。

蒸し込み終了後は，作物残渣のハウス外への持ち出しを徹底し，罹病残渣からの各種病害の伝染を防止する。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 6月1日から6月30日)

気象庁(5月31日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	30	40
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 6月1日(土曜日)から6月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 6月8日(土曜日)から6月14日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 6月15日(土曜日)から6月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。